

世界最古のタイル 魂のための扉

竹多 格 ITARU TAKEDA
(INAXライブミュージアム 主任学芸員)



階段ピラミッド



王のための魂の扉（「世界のタイル博物館」常設展示コーナーより）



オリジナルのタイル



左—スカラベ、右—ウジャトの眼

エジプトのサッカラ（カイロの南約25km）にある「階段ピラミッド」は、今から約4,650年前の古王国第3王朝期のジェセル王の時代に建造された、現存する世界最古の石造建築です。その地下通廊に、これも世界最古とされるタイルが、石灰岩のブロックを積み上げた壁に嵌め込まれています。

この通廊には出入り口が一切なく、タイル張りの壁のみが偽扉として真っ暗闇の中に存在していたとされています。偽扉とその枠に張られた青色のタイルを、当時の製法に基づいて復元し、「世界のタイル博物館」1階の展示室に再現し、これを「王の魂のための扉」と名付けました。エジプトでは、死者は亡くなると来世でよみがえると信じられています。亡くなったジェセル王の魂が、現世（扉の奥にある墓室）から来世に向かう時に、この扉を通り抜けたといわれます。扉部分の石灰岩に彫刻された人物はジェセル王その人で、扉枠部分には、ジェセル王が上・下エジプトに君臨するのにふさわしい王であることが、ヒエログリフ（象形文字）で刻まれています。エジプトの民の、王に対する敬愛の気持と来世での復活を願う気持から、このような美しいタイル装飾を施したと考えられています。

タイルの大きさは、縦62mm、横38mm、青色、あるいは緑がかったターコイズブルーで、その表面は美しい緩やかな曲面をなしています。この形は、扉上部の造形から分かるように、葦の茎で編んだすだれを表したもので、そのため茎の丸みがタイルの曲面として造形されています。その輝きは、タイルというよりも宝石と呼んだ方がふさわしいかもしれません。

一方、タイルの裏面には、ちょうど飾りボタンの裏側のように中央部が台形状に突起し、その中に小さな貫通孔があいています。この突起と貫通孔は、垂直の壁に重さのあるタイルを確実に張り付けるといふタイル施工の永遠の課題に、既にこの時代に答えを出していた証しです。このタイルは、平板な所に張られたのではなく、石灰岩のブロックの表面に、タイル裏面の突起部分、更にタイル裏面全体が嵌り込むように、2段に加工したくぼみが付けられ、そこに張り付けられています。こうしてずり落ちる危険は回避されますが、石灰モルタルが固まるまでの保持については、ベースの石灰岩ブロックとタイルをヒモで結わえて固定し、万全を期しています。そのヒモを通す孔がタイルの突起部分と石灰岩ブロックにも貫通孔としてあけられています。

色鮮やかな釉薬のかかったやきものやタイルは簡単に造形できるため、古代エジプトでは、天然のトルコ石やラピスラズリに代わる人造宝石として珍重されました。それらは、ツタンカーメンのマスクや装身具の他、墓に副葬されるスカラベやウジャトの眼などの護符の素材としても多く使われました。*

ただ、いたる—INAXライブミュージアム 主任学芸員 / 1952年生まれ。京都工芸繊維大学大学院無機材料工学専攻修了。1979年、伊奈製陶（現・INAX）入社。外装タイル工場技術課、仕入商品管理、博物館設立準備を経て、現職。

「世界のタイル博物館」はINAXライブミュージアム（愛知県常滑市）内にあります。
詳細は、INAXライブミュージアムホームページ（<http://www.inax.co.jp/ilm/>）をご覧ください。



ヒモで束ねた葦の茎をやきものタイルで表現したもの（「世界のタイル博物館」常設展示コーナーより）